

《資料》

第二次沖縄民事陪審裁判（４）  
—1965年秋の訴訟記録—

陪審裁判を考える会（訳）  
荒川 歩、飯 考行、黒沢 香、四宮 啓、滝田清暉、新倉 修、西村 健、齋藤 哲<sup>1</sup>

This paper is a translated version of the second civil jury-trial record in the occupied Okinawa, Japan, in July 1965.

Research Group on Jury Trial

<目 次><sup>2</sup>

- 1 陪審員選定手続（Jury Selection）
- 2 正式事実審理（Trial by Jury）
  - （１）陪審員の宣誓（Oath by Jury）
  - （２）冒頭説示（Preliminary Instructions）
  - （３）冒頭弁論（Opening Statement）（ヘイグッド原告代理人）
  - （４）当事者尋問 原告ツルコ・ロバーズ氏宣誓
    - \* 以上、マテシス・ウニウエルサリス第22巻1号所収
  - （５）原告側証人尋問 証人チョウヘイ・トミシロ氏宣誓
  - （６）原告側証人尋問 証人裁判所書記官ダルシイ・M・エリオット氏宣誓
  - （７）原告側証人尋問 証人ジョージ・ホール氏宣誓
    - \* 以上、マテシス・ウニウエルサリス第22巻2号（2021年）所収
  - （８）原告側証人尋問 証人ヘイグッド原告代理人宣誓

---

1 いずれも陪審裁判を考える会の会員である。

2 原文に目次はなく、訳者らが便宜的に作成したものである。

(9) 非公開審理

\* 以上、マテシス・ウニウエルサリス第23巻1号(2021年)所収  
(同日午前11時40分: 休廷、同日午後1時00分: 再開)

(10) 被告側証人尋問 (非公開審理) 証人エドワード・N・ハリマン氏宣誓  
ア 主尋問 (マクレラン被告代理人)

\* 以上、本号所収

イ 反対尋問 (ヘイグッド原告代理人)

ウ 補充質問 (裁判所)

エ 反対尋問再開 (ヘイグッド原告代理人)

オ 補充質問 (裁判所)

カ 再主尋問 (マクレラン被告代理人)

(11) 被告側証人尋問 証人ジョン・ベラミー氏宣誓

(12) 被告側証人尋問 証人エドワード・N・ハリマン

(13) 最終弁論 (マクレラン被告代理人)

(14) 最終弁論 (ヘイグッド原告代理人)

3 説示 (Instruction)

4 評決 (Verdict)

（非公開の法廷は1965年10月27日午前11時40分、昼食時間に充てられ、その日午後1時00分に再開された。出席者は同じ人員——裁判長、両当事者の訴訟代理人、速記係——と、そしてハリマンさんと認められる人が再び、被告のテーブルにいた。）

裁判長： ヘイグッド代理人、言いたいことがありますか？

ヘイグッド代理人： ありがとうございます。私はマクレラン代理人とハリマンさんと面談しました。彼らは、利用できるアメリカ外国保険協会の基本定款のコピーが沖縄に存在しないことを私に伝えてきました。ハリマンさんは、これらの基本定款を見たことがないそうです。

裁判長： 彼は基本定款を見たことがないのですか？

ヘイグッド代理人： そうです。彼はそのように言います。しかし、私はハリマンさんが証人台に立って、AFIAの性質に関して証言するというマクレラン代理人の提案は良い考えであるかもしれないと思います。

裁判長： あなたはその意見に同意されますか。

マクレラン代理人： はい、裁判長。

裁判長： わかりました。

マクレラン代理人： ハリマンさんは喜んで質問をお受けになるでしょう。

裁判長： わかりました。ハリマンさん。それでは、右手を上げて宣誓してください。

（エドワード・N・ハリマンは、陪審が聞かない手続のため、証人と呼ばれ、宣誓を行い、次のように証言した。）

#### 主尋問

マクレラン代理人による質問

Q： あなたのお名前は？

A： エドワード・N・ハリマン。

裁判長： スペルは。

証人： H-A-R-R-I-M-A-N

Q： あなたは、ニューヨークのホーム保険会社との関係を持っていますか？

A： 個人的にですか。

Q： そうです。あなたは同社の代表者ですか、それとも沖縄の担当者ですか？

A： AFIAの代理支配人として、私は同社を代表します。

- Q : あなたのお住まいはどこにありますか？ どこに住んでいますか？
- A : 小山にあるAFIAのアパートです。
- Q : それは宜野湾村ですか？
- A : はい、そうです。
- Q : ハリマンさん、お願いできるならば、あなたの言葉で裁判所に、AFIAとは何か、あなたがAFIAの組織について知っていることを話してもらえますか？
- A : AFIAは、現在、アメリカ合衆国のあちこちに本社を構える13の保険株式会社の連合体です。私が「現在」と申し上げるのは、この数は構成される取締役会によって変更することができるからです。各個の会社は、連合体つまりAFIAの事務所を通して海外で活動しています。たとえば、沖縄では、私たちはそのような会社を5つ登録しています。保険が出されると――
- Q : すみません。沖縄に登録されている、これら5社はどこにありますか？
- A : これらは宜野湾市の事務所に登録されています。
- Q : 現在、AFIAは沖縄で自らのJFTBライセンスを持っていますか？
- A : 5つの保険会社を代表するためだけに、それを宜野湾市に登録しています。
- Q : アメリカ外国保険協会はそれ自体、保険会社として、保険を売っていますか？
- A : いいえ。彼らは保険会社ではありません。
- Q : 保険を出すことがあるのですか？
- A : AFIAの名前ではありません、決して。
- Q : さて、それでは、それは他の保険会社を代表する機関ですか？
- A : それは協会です。私たちが機関と呼ぶことはありません。すでに私は、協会の基本定款を見ていないということをヘイグッド代理人に言いました。私たちの組織に関わる文書の多くを見ていません。保険証券の先頭に表示される会員企業のため、保険を勧誘する際、単に活動するだけです。
- Q : まあ、現在、沖縄のAFIAは、あなたの知識で、これまで契約当事者となっていますか？
- A : そういうことは、決して、ありません。
- Q : ――つまり、それによって、主要な契約当事者として？
- A : 決して、ありません。
- Q : ホーム保険会社は現在、沖縄に登録されていますか？

A： はい。

Q： 登録されて、何年か、経っていますよね？

A： はい、そうです。そこに参入された最初の正確な日付を知りませんが。

Q： あなたは、それが宜野湾市以外の場所で登録されているかどうか、知っていますか？

A： 私が知っているかぎり、ありません。いいえ、私が知っているかぎり。

Q： 現在、AFIA自体、沖縄に何か財産を所有していますか？

A： AFIAは何も所有していません。

Q： あなたは琉球政府がAFIAを沖縄の法人とみなしているか否かを知っていますか？

A： 彼らは本当に、AFIA が法的に何かを理解していません。彼らはそれを好んで法人と呼びますが、彼らはそれを理解していません。私たちは、彼らに教えようとはしました。

Q： 保険証書に関連して、ホーム保険会社が保険証券によって正式なものにする保険契約ですが、AFIAはそのような保険証券をどうしなければいけませんか？ 私たちの目的のために分かりやすく、この保険証券が実際に日本の証券会社を通して入手されたと仮定しましょう。

A： それを東京で入手したと仮定することができますと思います。日本の日本人ブローカーです。日本のブローカーは、東京のAFIA事務所に連絡してきます。また、これは沖縄の適用性に関してだと仮定しています。これはサービスのためにAFIA沖縄支店に照会されるかも知れません。私たちは、クライアントに接触し、保険証券を持っているか、そして、日本のブローカーが、対象範囲やそのクライアントにどのくらい費用が掛かるかについての詳細を受け取っていたかを見ます。苦情があった場合に、私たちは審査報告書のために沖縄のクライアントに必要な文書を提示して、当然のことながら、日本のブローカーに通知します。

マクレラン代理人： 非常によくわかりました。それ以上の質問はありません。

裁判長： ヘイグッド代理人。

#### 反対尋問

ヘイグッド代理人による質問

Q： ハリマンさん、あなたはAFIAが沖縄に財産を所有していないと述べていますが、それは確かですか？

- A : その通りです。
- Q : AFIAは沖縄に銀行口座を持っていますか？
- A : はい、あります。
- Q : あなたはその資産を考慮に入れていませんか？
- A : 私が仔細を説明しましょうか？
- Q : はい、是非お願いします。あなたは、アメリカ外国保険協会は沖縄に財産を所有していないと述べています。そして、あなたは、協会が沖縄に銀行口座を持っていると述べています。私はあなたに、あなたの証言のこの明らかな不整合を説明してほしいのです。
- A : 喜んで。AFIAは自身の不動産を所有していません。その従業員が使用する自動車と事務所やアパートが雑居する建物は、関連する会員企業のいずれかの名前になっています。銀行口座は、会計上の便宜のために、AFIAの名前で保存されています。その理由はこうです。私たちはここで登録5社を持っています。これら5社のうちのいずれかの要求があれば、私たちは共通の口座からそれを支払うことができます。それが私たちの取締役によって許されています。
- Q : あなたはAFIA名義で沖縄に複数の銀行口座を持っていますか？
- A : はい、持っています。
- Q : どんな銀行に。差し支えなければ、ハリマンさん。
- A : アメリカン・エクスプレス・バンク、バンク・オブ・アメリカ、そして琉球銀行。
- Q : AFIA事務所の、土地と建物をもっている者の名前は？
- A : ニュージャージー州ニューワークにあるアメリカ保険会社。
- Q : ニューヨークのホーム保険会社の代表者として、あなたは、沖縄における会社の資産が、もしあるとすれば、どのくらいか分かっていますね？
- A : はい。
- Q : アメリカ保険会社——いや、ニューヨークのホーム保険会社は沖縄に資産を持っていますか？
- A : アメリカ保険会社と同様、ありません。あなたが想定したとして。
- Q : あなたは、土地と建物があると述べましたが——
- A : アメリカ保険会社です。ホーム保険会社は何も所有していません。
- Q : ホーム保険会社は何も所有していません、ということですが、沖縄で何か所有していませんか、銀行口座でも、何でも？

A： 私の知っているものは何もあります。

裁判長： ちょっと待って。

裁判所による補充質問

Q： あなたは、ホーム保険会社は沖縄で何も所有していないと言うのですか？

A： その通りです。

Q： あなたは、銀行口座を持っているということを述べました。アメリカ外国保険協会の名においてですが、あなたはそれ以前、5社が預金口座または複数の預金口座を持っていると述べませんでしたか？

A： 預金口座は、いかなる要求にも対応するため、アメリカ外国保険協会の通称で通しました。

Q： しかしAFIA名義でこれらの3つの銀行に口座があるのではありませんか？

A： はい、あります。

Q： ホーム保険会社は、それらの預金の一定割合を所有していますか？

A： 私は、あなたが何を言おうとしているかわかります。沖縄で活動することでホーム保険会社は保険証券を売却します。そして、得られる保険料はそのAFIA預金口座に入れられます。

Q： しかし、ホーム保険会社は、実際には、これらの銀行口座の特定の部分を所有しているのではないですか？ 金額が、ある金額が、入金されて、それがホーム保険会社のものではないのですか？

A： 私は、これまでそれがこのように説明されるのを聞いたことがありません。あまりよく——

Q： どうですか、ハリマンさん。

A： 私は、あなたが言っているのが法的解釈であると想像します。しかし、私はまだそれを理解できません。

Q： いいえ、それはまったく法的なものではありません。それは法律とは何の関係もありません。銀行口座と原資は、保険証券で得られる保険料ですか？ 間違っていたら、過ちを指摘してください。

A： それと、沖縄で起こる要求に対して、なされる回復のためのもの。

Q： そして、それらの保険料の一部はホーム保険会社に属していますか？

A： ホーム保険会社のために、私たちが預けました。

裁判長： わかりました。ヘイグッド代理人、続けてください。

反対尋問（再開）

Q： あなたはご存知ですか、アメリカ外国保険協会またはその加盟会社に影響を及ぼすかもしれない基本定款として、あるいは、そのような合意のひとつとして、AFIAの海外事業の利益と損失のための合算方式がありますよね？

A： 彼らは、これまでにこういった、いかなる文書化もしてくれませんでした。何がニューヨークで行われているのか、私は全くわからないのです。

Q： 問題はそうであったことを、あなたは知っているかということです。あなたが知らないならば、そう言ってください。

A： 私はそのような取決めに、まったく知りません。

Q： あなたの証言は、あなたがそのような取決めに知らなかったということですよね。あなたは取決めのことを知りませんか？

A： その通りです。

Q： さて、沖縄外のブローカーが、沖縄で主にビジネスをしているクライアントに保険を作成、というよりむしろ、販売した時には、ブローカーが保険証券を作成して発行したのですか、それとも、AFIAの沖縄オフィスに保険証券を作成させ発行させたのですか？

A： それはAFIAの沖縄事務所が発行しています。

Q： 極東建設サービス社への保険証券780A-2215は、AFIAを通してホーム保険会社によって出されましたが、あなたはその状況をよく知っていますか？ あなたは、その保険証券がAFIAにより実際に用いられたかどうか知っていますか？

A： はい。

Q： 保険証券を実際に売ったブローカーが東京のポール・オーレル保険代理店であったことは、自明のこのようですが？

A： ポール・オーレル、そうです。

Q： AFIAは実際に保険証券を準備して、発行しましたか？

A： はい。

Q： 沖縄で？

A： はい。

裁判長： ハイグッド代理人、あなたが今述べたのは、保険証券780A-2215ですか？

ハイグッド代理人： はい。それが私の質問でした。



Q： AFIAには株主がいますか？ それは事業体で、その投資家がいるという感覚ですか？

A： AFIAが非営利団体かどうか知りません。言い換えると、彼らは利益を得ることはないですが、損失を被ることもありません。AFIAの取締役会は、通常、関連する企業等の会長または社長です。言い換えると、AFIAの社長と称される男を含み、13人存在することになります。

Q： 言い換えると、AFIAは組織化され、単にその加盟会社の便宜だけで機能していて、損失は被らないのですね？

A： その通りです。

Q： ——そして、これらのサービスのために、加盟会社から支払いも受けていませんか？

A： そうです。

Q： 必要なものだけを受け取ります——

A： はい。

Q： その方法というのは——

A： 費用です、はい。

Q： あなたは、沖繩で代表として行動することを許可する、ホーム保険会社が発行した委任状を持っていますか。

A： はい、持っています。

裁判長： え、持っていますか？

証人： 委任状を持っているか、ですか？

裁判長： はい。あなたはお持ちですか？

証人： はい。

Q： あなたは、今それをお持ちですか？

A： いいえ、持っていません。それはしまっておりません。

Q： その中の、あなたがホーム保険会社の代理として訴え、訴えられるか否かについて、私たちに十分に説明する言葉を思い出すことができますか？

A： 私は、覚えていません。それは代理用の委任状で、私たちの東京の支配人によって発行されたものです。

Q： それは、代理用の委任状に添付される基本的な委任状のコピーを含みますか？

A： 宜野湾村で登録するためです。

Q： それはあなたに、ホーム保険会社に対する訴訟手続きのサービスを受け

入れることを許可していますか？

A： はい。私はそのように考えています。最近、そういう意味で慎重にそれを読んでいません。必要ならば、それを調べてみますが。

Q： あなたは、AFIAが宜野湾市に事務所を置く土地及び建物は、ニュージャージー州ニューワークのアメリカ保険会社の名義で登録されていると、述べています。

A： その通りです。

Q： ニュージャージー州ニューワークですか？

A： (肯定的にうなずき)

Q： ニュージャージー州ニューワークのアメリカ保険会社は、実際にすべての資産の所有者ですか、それとも、アメリカ保険会社は、AFIAのすべての残りの加盟会社を代表して、委託されて、それを実際に所有しているのですか？

A： 良い質問です。私たちは、会員企業のいずれかで、すべての不動産を登録します。賃貸料を維持することは、AFIAの運営経費のひとつに含まれます。実際のはっきりした所有権に関しては、AFIAが営利組織として本当に存在しないため、私たちは常にメンバーまたは関連会社の名前での登録を試みます。

Q： ニュージャージー州ニューワークのアメリカ保険会社以外の加盟会社、つまりAFIAの他のメンバー企業は、沖縄でAFIAによって占められている不動産に、収益上の権益がありますか？

A： いいえ、それが「有益だった」と言うわけではありません。一般にお金をAFIAの活動から取ってっています。

Q： 「有益な」といえば、私が現在話しています——

ヘイグッド代理人： 発言を取り消します。

Q： あなたはその建物を購入する際、単にニュージャージー州ニューワークのアメリカ保険会社のお金でだけで支払いをされたのか、それとも、AFIAの一般的な資金で購入されたのか、ご存じですか？

A： 私の知る限り、それはAFIA資金で購入されました。私は、それについての書類をこれまで見たことがありません。

Q： さて、それでは、いずれにせよ、その土地と建物が売られるならば、売却の収益はAFIA口座に支払われ、最終的には加盟会社で分けられるのですか？

A： 理論的には、とにかく。

ヘイグッド代理人： 私はこれ以上、質問はありません。

裁判所による再補充質問

Q： もう一度、ちなみにハリマンさん、ホーム保険会社が、沖縄のクライアントに保険証券を発行し、そして、損失は保険証券で補填されたとします。すなわち支払うということは、AFIAはいかなる状況においても責任が生じない、というのがあなたの主張ですか？

A： AFIAには支払い義務はありません、はい。

Q： では、もう一度理由を述べてもらえますか？

A： 保険証券に関する保険をかけられている会社の名前が、私たちの関連会社のひとつであるから、ということです。

Q： 言い換えると、あなたは、AFIAにはこれらの状況の中であなたが発行する保険証券に関して何らの責任がないと言うのですか？

A： はい。

Q： それは単なる代理店にすぎないと、あなたは言うのでしょうか？

A： それは協会です。

Q： 協会ですね。言い換えれば、AFIA自体は保険証券を売却しませんし、保険証券に関して発生したいかなる損失にたいしても支払いをする合意をしていないということですか？

A： う～ん、AFIA——。それは、私がアメリカンやホームやその他に代わって、保険証券に署名する委任状を持っている理由です。要求があり、被保険者がお金を払うことを強制されるならば、AFIAもお金を払います——AFIAはお金を払います——たとえば、ある男がやって来て、言います。「見てください、請求書がここにあります。私はお金を払わなければなりません」。そして、私たちは想定されたアメリカン保険への要求としてそれを処理します。そして、それは一般の預金口座から支払われます。

Q： しかし、言い換えると、あなたは発行された保険証券によって、支払わなくてもいいのではありませんか？

A： AFIAによってですか？ そうです。

裁判長： わかりました。その他、質問は？

マクレラン代理人： 私は、ほかに何もありません。

ヘイグッド代理人： 私はいくつか質問があります。

ヘイグッド代理人による質問

Q： 自動車損害賠償責任保険についてですが、被保険者が支払いをする義務がある場合、つまりある人が来て支払うものの指図書を提示する場合、AFIAが被保険者に代わって支払うと、あなたは述べていますか？

A： 私たちは実際のところ、それを支払っていません。実際、AFIAの事務所がいずれかの企業に代わって支払うことはありませんが、それは被保険者が支払うことを要求される損失について、すべて特定のクライアントが補償します。言い換えれば、あなたに請求があり、それが私たちクライアントのいずれかと相反する場合、通常沖縄における私たちの請求には下士官兵が関係しているので、あなたは私たちのオフィスに来て請求しますが、それは困難なのです——。私たちは通常、下士官兵をまとめて、それがいくらかになるかについて、彼らに話し、それを解決しようとしています。あなたは最近請求していましたね、そして、これがどのようになるか知っていますよね。いいえ、それは私たちのクライアントのいずれかではありませんでした。あなたの車の——

Q： 私が聞いているのは、AFIAによる支払いは、AFIAによるものか、それとも、たとえばホーム保険会社のためになされるのか、ということです。

A： 私たちはクライアントに弁償します。あるいは補償します。私たちは、特定の主張に関して特定の金額の支払いを余儀なくされたクライアントに賠償します。

Q： あなたは被保険者を補償しますか？

A： ええ、まあ。

Q： 被保険者が沖縄人をひいて、足を骨折させたとき、あなたは被保険者に支払いをします。あなたは自動車の所有者からの請求に基づき、あなたは小切手を、沖縄人をひいた軍曹に支払われるようにして、沖縄人から解放します——それでいいですか？

A： 通常、そのようなケースでは、私またはアメリカ人のいずれも、特定の沖縄人の請求者と話すことは不可能であるので、私たちは通常私たちがができる最善の方法でクレームを解決するため、請求者の許可を得て、沖縄人スタッフがこの請求者と交渉します。

Q： あなたが「請求に応じて」と言うとき、支払うべきことになる小切手は誰に出しますか、被保険者それとも被害者ですか？

A： それは場合によって異なります。被保険者であるときもあれば、被害者

であることもあります。それはすべて異なります。

Q： 私は、自動車損害賠償責任保険の範囲について話しています。衝突または横転または広範囲の補償または医療の支払いではありません。あなたの被保険者が実際に支払う責任を負うか否かを問わず、私は身体の怪我または死のための、または、他の誰かの車両への物的損害のための責任について話しています。あなたは、私が話している保険の種類を理解していますか？

A： はい、理解しています。

Q： さて、これらの状況下で、あなたはあなたの被保険者が責任を負うことを決定し、あなたが支払うべき金額を決定します。そして、そのような状況の下で、今、彼保険者を説得するのに十分であるとして、請求者がリリースに署名するために受け入れると判断したとき、あなたは小切手を誰に発行しますか。被保険者ですか、それとも請求者ですか？

A： 私たちはそれを請求者に支給します。それが簡単なようです。

Q： さて、少し前、あなたはクライアントを補償していると述べましたが、あなたは弁償しますか——

A： 目的は——

Q： さて、それはあなたが言っているものです——

証人： 私は、質問に答えることができますか？

ヘイグッド代理人： はい。

A： 補償の目的は、あなたのクライアントが請求者に支払い、あなたがクライアントに支払うことです。それは保証証書に書かれている方法です。しかし、問題を単純化するために、私たちはクライアントに支払って、クライアントが負傷した請求者に支払うようにはさせないようにします。私たちは直接請求者と合意に達するよう、問題解決の促進を試みます。私たちの立場は、私たちのクライアントをできるだけトラブルから遠ざけることです。それで、私は——

Q： 弁償請求のため、あなたが被保険者に小切手を発行したのは、もっとも最近ではいつですか？

A： これについては、わかりません。

Q： あなたは、この協会の運営を始めてからこれまでに、被保険者に小切手あるいはほかの支払い方法で、第三者の身体傷害の主張があったとき、賠償請求の解決において、支払いをしたことはありますか？

A： はい、私たちは部分的な支払いをしたことがあります。

- Q : 被保険者が救急病院の支払いなどのために、自費で沖縄のお金を支払ったような状況の下で、あなたは、その支払い限度で被保険者に弁償しますか？
- A : します。
- Q : 譲渡で名前が出た譲渡者の指示によって出された小切手を考えるにあたり、請求者から被保険者が得られる譲渡のすべての場合を、あなたが必要とするというのは、違いますか？
- A : 請求者、そうです。
- Q : 請求者に。言い換えれば、支払いは被保険者を介して請求者ではなく、支払われるべき小切手の形で請求者に直接——
- A : (間に入る) あなたが方法に関心を持つならば、そうですね。私たちがやっているものを行う主な目的は、私たちのクライアントへのサービスです。私たちは、クライアントを介して支払うのです。保険の目的のひとつはサービスであり、私たちが被保険者に仕事を出来るようにして、合意に到達しようと多くの時間を費やし、被保険者を不要にできれば、すべての可能な場合、私たちは、これを実行します。
- Q : AFIAは、沖縄では常にこのようにして保険事業を行っていますか？
- A : 私は2年間だけです。あなたが私の知る限りでお尋ねならば——
- Q : あなたはどのくらいAFIAにいますか？
- A : 1959年からです。
- Q : あなたは、沖縄に来る前に、どこのAFIAで働きましたか？
- A : シンガポール、マレーシア。
- Q : あなたはシンガポールで責任保険を販売しましたか？
- A : しました。
- Q : あなたは、不法行為請求に関して、被保険者に必ず支払いをしていましたか？
- A : 私は英国の法律に言及したくありませんが、英国の法律の保険フェーズで、彼らがノック・ツー・ノック協定と呼んでいるものがあります。2台の車が衝突した場合、例えば、その後何のクレームもないことがあります。彼らは相互の請求よりもむしろ、補償の方を検討します。
- Q : AFIAとホーム保険会社との間の関係がどのようなものであるかということについて、私たちがこのヒアリングの目的から遠くなっていると思います。それはこの関係が、加盟会社のために働く代理人であるというのが、あなたの主張だと思います。

A： 私は、「代理人」という言葉は好きではありません。代表です。沖縄の協会の支配人は、これらの会社を代表し、彼らに代わって行動します。代理人は手数料を意味します。私は手数料をうけとっていません。

Q： さて、あなたは、加盟会社に対する請求が支払われるとき、AFIAの資金からAFIAによって支払われると少し前に述べました。それは正しいですか？

A： 正しいです。

ヘイグッド代理人： 私は、更なる質問はありません。

裁判長： マクレラン代理人。

#### 再主尋問

マクレラン代理人による質問

Q： ハリマンさん、AFIAは実際のところ、これらの資金を扱うことで、これらその他の企業のために、「受託者」の働きをしていませんか？

A： 私は、それがより適切な言葉であると思います。

Q： さて、資産に関係してですが、おそらくあなた自身の代理人を通して、AFIAは法人ではないので、それが沖縄に不動産を所有することはできないことを、琉球政府によって助言されていると思います。それは正しくありませんか？

A： はい、特に私たちの自動車に関連して、彼らはそう言いました。

Q： そして、5つの会社は保険業者だということでもいいのですか？

A： はい。

Q： そして、それぞれは、アメリカ合衆国内で組織される株式会社ですか？

A： 間違いありません。

Q： そして、これらの会社は各々、保険証書を書いて、クライアントと保険契約を結びますか？

A： そのとおりです。

ヘイグッド代理人： 裁判長、私は疑問に思います。

裁判長： 少し待ってください。異議がありますか？

ヘイグッド代理人： はい、異議があります。私は、誰がここで証言しているか、マクレラン代理人なのか証人なのか、分かっていません。

マクレラン代理人： 裁判長、私は単に試みているだけです——

ヘイグッド代理人： 彼はあらゆる質問でリードしています。

裁判長： それは繰り返しにすぎません。

マクレラン代理人： 代理人が聞いているだけで——

ヘイグッド代理人： マクレラン代理人が証言しています。

裁判長： 分かりました。それは目撃者が以前に証言したものの繰り返しであると、私は考えます。続けてください。

Q： サービスを提供する保険証書による利益の、いずれかの所有権が、AFIAにありますか？

A： 私の知る限りでは、ありません。

Q： 指定された保険契約がAFIAの中で発行された場合、その保険を担当することになる特定の会社は、契約当事者は、これら5つの会社からどのように選ばれますか？

A： 私たちは通常、代理店を介して活動し、私たちはその関連会社の1つを割り当てて、その代理店のためにだけ契約するようにしています。その代理店がビジネスを作り出すとき、そのビジネスはその代理店に割り当てられた保険会社の名においてなされます。ウォークイン式のビジネス（店頭売り）のために、私たちはもう一つの会社を割り当てておきます。それは、「適当」というわけではありません。

Q： ということは、沖縄に副代理人がいるということですか？

A： 私たちは、直接代理人、つまり登録された代理人を持っています。

Q： 私たちにもうちょっと分かるよう、裁判所のため、いくつか名前をあげてもらえますか？

A： ウィリアムズ・インターナショナル社、パークレー社、アメリカン・エクスプレス社。

Q： これらはそれぞれ異なる会社を代表する、または——

A： はい、そのとおりです。

Q： または、同じように——

A： それぞれが別の会社を表します。

Q： 5つの別の会社。現在、私たちがここで扱っているこの特定のケースでは、なぜ、またはどうして、ホームが問題の保険会社として選択されたのか、あなたは知っていますか？

A： 私は知りません。

Q： これは日本でなされる決定ですか？

A： そうであると推定しています。率直のところ、私は知りません。私は、



その質問に答えることができません。

マクレラン代理人：分かりました。私は現時点では更なる質問はありません。

裁判長：更なる何か、ありますか？

ヘイグッド代理人：いいえ、裁判長。

裁判長：ハリマンさん、ありがとうございます。

（証人ハリマン氏は、許されて証人席から撤退し、被告席へ戻った。）

ヘイグッド代理人：裁判長、発言してもよろしいでしょうか？

裁判長：どうぞ。

ヘイグッド代理人：私は、動議は否定されるべきだと思います——つまり、ある関係者を外すという動議です。なぜならハリマン氏がただいま証言したように、会員会社の1つが発行する保険証券に対する請求があったとき、それはAFIAによって、AFIAのお金で支払われています。ハリマン氏はまた、沖縄に維持されている銀行口座がAFIAの名前であることを証言しました。

さて、規則17条を見ていきますと、当事者——原告と被告：能力、パラグラフ（a）は、利害関係のある実際の当事者に関する規定：（読む）「すべての訴えは、利害関係のある真の当事者の名前で行われなければならない——」。パラグラフ（b）、訴訟能力：次のように書いてあります。（読む）「訴えることができるか、訴えられることができるかの個人の訴訟能力は、各当事者の住所地の法律で決まる」ですが、現在、それは重要ではありません。

ここで私たちは、沖縄のAFIAの管理者であり、かつ被告ホーム保険会社の正式代表者を名乗る者が認めるところによれば、唯一AFIAがお金を持っていますので、AFIAはここでは利害関係のある実質的な当事者です。この方針の下でなされるいかなる支払いも、必ずAFIAによってなされなければなりません。このホーム保険会社を含む会員会社はこれらの金銭に有益な関心を持っていること、すなわち、金銭が実際に会員会社のための受託の一種としてAFIAにより保持されていることを認めています。

そこで、私たちが直面している困難を見てください。ここ沖縄に来て、保険証書に署名し、保険証券を販売している保険会社を私は訴えています。が、保険料の徴収およびこれらの売却による収入の保持や不動産以外の資産の保有で、自身と公衆の間に介在するこの架空の組織は、権利能力なき社団と呼ばれているもの、AFIAであり、お金を持っています。今、私はここに

います。私のクライアントのために、お金を取得しようとしています——  
裁判長： さ—て、——

ヘイグッド代理人： ——保険証書に基づき、彼女の夫の死亡のために。私は郡の祭りで、大道芸人が古いかさまをするのを見ている見物人の状況にあることに気づいています。彼はクルミ三つとエンドウ豆を持って、それらをまわして移動し続けます。ゲームの目的は、あなたがどのシェルの下でエンドウ豆を見つけるかについて推測することです。そして、この場合、私たちはこれらのものの、いずれかが損害賠償であり、いずれかがお金であるという検索を試みようとしています。

ハリマン氏がホーム保険会社は沖縄に一切資産を持っていないと証言しました。ハリマン氏の証言を信じれば、この管轄下では、今、明らかにホーム保険会社に対する判決は紙切れに過ぎず、どうやら実際には、マクレラン代理人の質問とハリマン氏の答えによれば、その正面に現れるAFIAの名前は、琉球政府の目には何の法的存在も映らず、琉球にホーム保険会社の資産をもたらす意思はありません。不動産を所有することは許されません。独自の外国投資ライセンスもないのです。会員会社は、非常にたくみに彼らのお金をこの架空の存在、AFIAの手中に置いています。いま、この訴訟の当事者としてAFIAを加える必要性、理由がわかります。その者は本人つまりホーム保険会社の代理人以上の存在です。もし表現として許されるならば、AFIAはこの保険会社の共謀加担者であり、表面上委託してその保険会社の資金を保持しています。しかし、いざという時には、お金は支払われなければなりません。そして突如あなたは、資金はもはや保険会社のものでないということに気づきます。名前を上げられた保険会社は保険証券であり、今この資金はこのAFIAに帰属しているのです。

だから、裁判長、ここには当事者—代理人の関係以上のものがあります。パートナーとか合弁事業とか、あるいはマクレラン代理人が受託者と述べている以上の関係があります。「受託者」という言葉は、このような取決めを説明するには、少しあまりにもいかめしいとも感じますが。

要するに、裁判長、マクレラン代理人は、当裁判所に、いくらかでもお金でも持っていて、ホーム保険会社その他により、この保険証書の販売と発行される様々な保険証書の収入である金銭を持っていることを認める唯一の被告を、この訴訟から逃れさせるよう求めています。保険会社は請求に対する支払を明らかに目的としていないが保険証券を売るという、マク

レラン代理人の理論が採用されることになれば、非常に便利な逃げの手段です。保険会社は保険証書に署名します。請求の支払いはAFIAによってなされ、資金はAFIAの名において管理されます。

裁判長、あなたが今日この法廷で聞いたという証言——

速記係： ちょっと待ってください。私はルールを変えなければなりません。

（１分の後、続ける）

ヘイグッド代理人： 裁判長、私は、本日ここで聞いた証言から、AFIAは全く架空の機構または協会であり、ホーム保険会社とその被保険者が対処しなければならぬ緩衝装置として作られ、その保険会社と怪我をした人が対処しなければならないものだと思います。

さて、今朝、私は日本の規定——日本民法典に言及しました。私は記憶から引用したため、間違った条項を引用してしまいました。

裁判長： あなたは第43条を引用したと、私は思っています。

ヘイグッド代理人： そうです。それは間違いでした。それは、第49条でなければなりませんでした。私はここに、琉球民政府によって公布され、琉球列島に影響を持つ日本民法のコピーを持っています。

裁判長： それに対して、何か異議は？

マクレラン代理人： 異議ありません。

裁判長： わかりました。異議はありません。

ヘイグッド代理人： 第49条、同条の柱書には「外国法人の登録」、第２項は以下読み上げます。「第２項 外国法人が初めて日本に事務所を設けた場合、登録は、その事務所の所在地で行われるまで、他人はその法人の成立を否認することができる」。今、この言語は少し混乱しています。

裁判長： その引用は何でしたっけ。

ヘイグッド代理人： 第49条の第２項です。

裁判長： 第49条第２項。それを見せていただけますか。はい、なるほど。そのとおりです。

ヘイグッド代理人： そこで、日本の民法典のこの条文に、とてもよい理由が存在します。このような状況のときです。誰かが来て、会社であるふりをして、たくさんのビジネスをして、多額のお金を引き入れ、たくさんの金員の義務を作ります。あなたがそこに来て、多額の義務を彼が支払うようにしたとき、とつぜん、彼はあなたの目の前から消えてしまいます。そして、彼が存在しないということに気づきます。これが私たちの置かれた状

況です。AFIAは、長い間、保険ビジネスを行い、沖縄でうまく立ち回ってきました。それは当初ここに入って、アメリカ外国保険協会で、4つまたは5つの加盟会社の名前においてではなく、「AFIA」の名前で対外投資委員会許可を得ました。明らかに、この組織の唯一の資産、保険証券に名前があげられた被告のホーム保険会社とのその変わった関係のある、この組織——、私たちが、このホーム保険会社が保持している唯一の資産は、AFIAによって、委託・管理されています。

さて、本人—代理人の関係よりも、もう少し親密な関係があります。「私はこの件で米国内での誰かを代表して、あなたにもいくつか販売します」という代理人の問題だけではないのです。しかし、保険を買う人々は、その類いのものに頼りません。彼らは保険を購入するとき、「あなたを保険しているのは誰ですか」と聞きます。その時、彼らは「AFIA」と言います。彼らは「私は、ニューヨークのホーム保険会社、またはニュージャージー州ニューワークのアメリカ保険会社に保険をかけられています」とは言いません。あなたは陪審員候補の予備尋問で、ここの誰かがその質問をしたことを思い出しますし、また、彼らは、「私は、AFIAで保険をかけられています」とか、答えたのを覚えていると思います。

それで、裁判長、私は、誤った併合や当事者がここには存在しない、と考えています。ハリマン氏が「任意の請求が支払われる場合、訴訟がホーム保険会社に対してであっても、ホーム保険会社によってではなく、AFIAによって支払われます。支払いがなされるならば、それはAFIA資金からAFIAによって払われます」と述べているので、この訴訟の結果に対しては、ハリマン氏により告白された非常に明確な金融的関心があります。だから私は、訴訟からAFIAをはずすことの高度の技術な点は少しも良いことをなさないし、AFIAは合法的にこの訴訟から脱退する権利があると見ることはできません。彼らはこの訴訟の結果に明確な金銭的な関心を持っているし、その訴訟は支払いを余儀なくされようとしている誰に対しても向けられているからです。ハリマン氏は、支払いが行われた場合、AFIAは支払いをする主体であることを認めています。

マクレラン代理人： 発言してもよろしいでしょうか、裁判長。手短に申し上げます。

私は、ヘイグッド代理人の明白なフラストレーションを彼が経験していることに同情します。しかし、残念なことに、私たちは裁判所の規則にお

いて、法律に従うことが求められています。

繰り返しますが、この事件の訴答書面を参照すれば、被告が保険業者であると述べておりますが、この裁判記録のうちに、アメリカ外国保険協会が保険業者であることを示す証拠はどこにもありません。これは証拠がまったくなかったということのひとつです。

原告がこの事件で勝訴するには、保険の契約によって勝たなければなりません。契約の非常に基本的な法律は、その契約の当事者のみが、それに対して責任を負うと定めています。AFIAは当事者ではありません。AFIAがこの契約の当事者であるとの記録証拠がまったくありません。訴訟代理人が述べましたが、現在、訴訟規則が規定しているように、当事者が実際に利害関係にある場合に、訴訟は遂行されるべきです。しかし、それは被告ではなく、原告に言われるべきです。併合問題は被告へ行きます。私たちは、利害ある本当の当事者に関心を持っていません。裁判所に来なければならないのは、カービー・ロバーズ氏の財産の管理者または執行者という理由で、却下の申立てを起こして、私たちは先日これを徹底的に議論しました。この事件を遂行する、利害ある真の当事者に関する限り、これはすでに決定されています。

私たちの現在の関心事は、この裁判所がこの裁判をすべて、エージェントの法律関係以外でこの事件とまったく関係のない被告に追行させることを法的に認めることができるかどうかという問題です。「エージェント」は保険ビジネスにおいていろいろなものを示唆するため、ハリマン氏がこの言葉を好まないことは知っています。私は、エージェントに関する法律に言及しています。エージェントに関する法律において、人は当事者とエージェントを兼ねるはずがありません。ここでは私たちは、当事者とエージェントとの双方に対してこの訴訟を起こされました。エージェントが存在し、エージェントが契約締結能力のある当事者であるならば、契約は必然的にエージェントによらなければなりません。

このケースでは、当事者つまりホーム保険会社はアメリカ合衆国で組織される会社で、契約締結能力を持っています。アメリカ外国保険協会はニューヨーク州のビジネス団体で、おそらくそのような能力を持っているが、ここで適用される法律の下では、それがないことは確かです。いずれにしても、この被告は保険会社であるという申立てを補強するこの記録は、まったくありません。そしてそれがない場合、AFIAは保険業者であることを

示し、この問題に関する証拠がなかったという理由だけで、私たちは提起されなかった問題やこの法廷では問題になっていない問題に対して弁護することを求められます。

資産に関するこれらの問題はすべて興味深いものですが、それらはここで私たちの問題に特に密接に関係するものではありません。問題は、訴えに対する疑問と回答そしてこの法廷の規則に関わってきます。この裁判地を選択したのはヘイグッド代理人でした。彼は同じように容易く、米国においてこの訴訟を起こすことができましたが、彼はこの裁判地を選択しました。これが誤りであるならば、私たちは同情しますが――

裁判長： まあ、代理人――

マクレラン代理人： しかし、残念ながら、それは現在、存在する状況にあります。この裁判の立証の終わりに達したことを想像してください。一体全体どうして、陪審はアメリカ外国保険協会が保険業者であったと評決することができますか？ そして、どのように、彼らはその質問に答えることができますか？ 現在、当事者らが、これらの当事者らが一緒にされました。すなわち彼らは共同で訴えられているのです。異議申立の中には、彼らが保険会社とされた事実を除いては、当事者いずれについても、地位、法的地位に関する申立が全くありませんので、これは、少なくとも原告が何らかの証拠を持って出てこなければならぬ重要論点になります。記録の状況はこれを支持しません。

AFIAが、原告代理人がいうように、架空の会社であるならば、まず始めに、この訴訟において何をしているというのでしょうか？ それは法的実質を持っているか否かです。いずれかでなければなりません。それは架空のものであるか真実のものであるか、いずれかです。その答えは非常に単純なもので、それはまったく真実です。5つの会社とこれらの会社を個々に代表する支配人は琉球政府によって認められています。そして、その一つはホーム保険会社です。

いま、私たちは、ホーム保険会社は当事者適格がないという、いかなる疑問も呈していません。私たちは、その点において混乱が生じることを望みません。しかし、その者がいるとしたら、受益者、第三者の受益者がいるのであれば、それに加えて、いなければなりません。これらはすべて実在しなければならず、すべて有効に存在しなければなりません。そして、人が他者に代理される場合、代理関係が存在するのであれば、それから、

直接的な責任は発生しません。だから、したがって、私たちは、AFIAは保険会社ではないため、適切な当事者ではないとして、この訴訟から脱退させる権利を有しています。

裁判長、これで終わります。

裁判長： 分かりました。ほかに何かありますか？

ヘイグッド代理人： マクレラン代理人は、私たちがこれを法律により決定しなければならないと言います。彼は法律を引用していません。彼はまったく法律を引用していません。彼はこの特定の請求がAFIA以外の誰かに対してあるように見えることが非常に残念であると言ったのであり、たとえホーム保険会社がAFIAの支配人を通して、支配人によってのみ沖縄に存在すると認められるとしても、あなたはまさにホーム保険会社を訴えるべきだと言うのです。これら保険会社のために集められる資金は、ホーム保険会社の支払義務の保証として、沖縄では管理されていません。いいえ、資金はAFIAによって集められて、AFIAにより管理されます。

裁判長、AFIAは責任能力のある当事者ではなく、訴訟の重要な当事者でないことと決定するという事は、法的な不条理を作り上げることです。法的権利があるが権利に対する救済を持たない人を作り上げるということになるでしょう。現在、その名前で進めるために、この訴訟に残ったとしてもAFIAをいささかでも傷つけません。ニューヨークのホーム保険会社とAFIAに対する判決が何であれ、この訴訟において何かが得られるとしても、判決を下すことが、AFIAに僅かな痛手をも与えることにはなりません。統一的に、なぜなら、AFIAの支配人兼ホーム保険会社の代表権者は、ここで証言台に立ち、宣誓証言の形で、その方針の下でホーム保険会社により支払われるいかなる請求もAFIAの名前でここ沖縄にある銀行に保管されている資金から支出されると陳述しましたので、すべてはAFIAにより賄われることになります。

そういうことで、この高度に技術的な点において、AFIAと——それが何であれ——保険証書で見かける会社の名前を、裁判所のために、区別をはっきりさせていません。それは、私があなたがたに話していた昔のいかさまです。会社のほんのわずかな速いフットワークで資産を見つけましょう。でなければ、この未亡人とこの孤児は死ぬまで、一生の残された人生の間、法廷を渡り歩き続けることになるでしょう。これらの保険会社は、この巧妙なフットワークを継続することができるのです。これは6年以上

も続いています。

カービー・ロバーズさんが亡くなったのは6年以上も前のことですが、ロバーズ夫人はまだまったく金銭を得ていません。私たちは今、裁判の終わりに近づいています。資産を公から隠すための、この保険会社による不届きな計画における、この悪辣なパートナーであるアメリカ外国保険会社は、今や法廷に出て、これらの当事者をさらに邪魔できるよう、厚顔無恥に許しを得ようとしています。

裁判長、ここには法的誤りが存在しないでしょう。実際の観点に立ち、「では、AFIAの正確な身分に関する有効な証拠が存在しない中、そのことは裁判に委ねましょう。AFIAが自身にこのお金の支払い義務がないことを証明できるなら、是非そうしてもらいましょう」と述べることはきわめて正しいことです。しかし、AFIAは何ひとつ証明していません。彼らはただここに来て、原告がAFIAとは何者かを証明していないと述べるのみです。確かに、原告はAFIAが何者かを知らないため、彼らが何者かを証明していません。

しかし、原告は知っています。裁判所は知っています。AFIAがお金を豊富に持っており、被告であるホーム保険会社が自身のお金をそこに隠していることを知っているのです。私はまた、裁判長、何が行われているかをAFIAが把握しているはずであり、必要であれば、3番目の訴訟を起こすつもりであることを申し上げます。私たちはすでに、1番目の判決とともに、2番目の訴訟を提起しているところです。最初の裁判では価値ある判決が得られました。訴えは公平な観点で審理され、判決の承諾が確認されているのです。

以前この裁判でお聞きになったように、被保険者であるホール氏は、保険会社に対しこの判決債務の支払いを要求しなかった理由は、要求しなくとも自動的に支払われるものと考えていたためであると証言しています。ホール氏は、立派な保険会社ならば要求せずとも個人に対し自動的に最終判決の債務を支払ってくれるものと考えていましたが、支払いは行われませんでした。そのため、私が冒頭陳述で陪審に「裁判の必要のない案件」として説明した内容を持ち出す必要がありました。この訴訟はまったく必要なかったはずですが。私たちがこの悪辣な陰謀家以外の誰かのことを取り扱っていたとすると、このAFIAという会社——実際は何であろうと——および、その会員会社であるニューヨークのホーム保険会社は、その社名



を会社方針に載せながら裁判が行われる管轄区域内でいかなる資産も保有しておらず、この策略を許してしまうと、私たちはまさしく正義のこじつけに加担していることとなります。

彼らは、この裁判所を愚弄し、重要当事者を訴訟から退出させ、おそらくはこの裁判所の管轄区域外、沖縄県外でなおも必要な、さらなる裁判を行うつもりなのです。彼らは、マクレラン代理人がもっともらしく語っているように、「ああ、原告がこの裁判所を選んだのだ」と他人に思わせるつもりだったのです。マクレラン代理人は、原告がほかの裁判所で訴訟を起こすこともできたと語っています。沖縄人であるロバーズさんが沖縄県以外の裁判所でどのようにして訴訟を起こせるというのでしょうか。彼女の生まれ故郷であり、夫が亡くなったここ沖縄県以外で、夫の死に対する補償金を彼女がどのようにして受け取れるというのでしょうか。大衆から保険料を徴収する詐欺的な策略に思われることに関与し、多額の保険金請求が行われたら、きわめて狡猾なやり口でその請求の支払いを逃れる、この会社の立派な代表者諸氏は、つつましい暮らしを送り、明らかに健康を害し、小さな子供を抱え、米国その他への入国のビザも持っていない沖縄人女性が、夫の死亡に対する賠償金を回収するため、おそらくデラウェア州など他の土地に行き、デラウェア州の破産した会社に対して裁判を起こし、この裁判を起こしたら次はニューヨークに行き、ホーム保険会社を相手取って裁判を起こすことなど、まったくもって簡単なことであると他人に考えさせようとしているのです。

裁判長、私は申し上げます。この裁判所は何のために存在するのでしょうか？ この裁判所で私たちは何を行っているのでしょうか？ 前述のような形で法が機能し、前述のような形で人々が夫の死亡に対する保険金請求に基づき賠償金を回収しなければならないという訴訟代理人の主張が正しければ、この裁判所は存在する理由がありません。

この会社は沖縄に進出し、責任保険を販売するための免許を申請しました。しばしの検討の後——幾分かの検討が行われたはずですが——担当の政府機関が国際投資免許を与えました。最初に、政府当局はAFIAに国際投資免許を与えました。開業から数年後経ってようやく、AFIAが会社ですらないことに政府当局が気付きました。そのため、免許は、AFIAの13社の会員会社のうち5社の社名を記載するよう変更されました。しかし、この5社がこの沖縄に進出し、政府機関により責任保険販売の免許を

与えられました。請求が発生した場合、それが適正で偽りのない請求であれば、支払いを行うことが十分に示唆されています。しかし今、どのような事態が起きているのでしょうか？ AFIAの代理人や企業幹部側はこう言って、狡猾に立ち回ります。「いいえ、私たちには責任はありません。お金はあります。いいでしょう、請求に対してはAFIAより支払いを行います。私たちを訴えないでください。お金はあります。保険料をいただき、AFIA名義の銀行口座に管理していますが、これらの保険証書に従った請求を行うのであれば、私たちを訴えないでください。訴えるなら、ニューヨークのホーム保険会社を訴えてください。ただし、ホーム保険会社は、表の代表者であるこのAFIAを通さないことには、この管轄区域では資産を保有していないのです」。

裁判長、私が少々感情的になっているようでしたら申し訳ありません。ただ、広告資料を信じるならば、何億ドルもの資産を保有する企業が、夫を死に至らしめた人々を相手取って、公正な裁判を闘った後に得られた最終判決債務を、沖縄人女性に支払わないがため、このような陰謀に訴える様子を見てみると、私は不愉快になります。大変な不快感を覚えるのです。

裁判長、私はこの話を聞いたあなたが良心をいたく傷つけられたがゆえに、AFIAを被告当事者の座から除外する提案を棄却し、AFIAを残しておくよう、考慮いただけるものと考えております。それにより、当方が希望する判決が得られた場合、私は得られると信じていますが、これが得られた場合には、判決の履行のためAFIAの銀行口座に対し強制執行を課すことが可能となります。そうすると、資金はこの沖縄にあるのですから、この裁判所で得ようと考えている判決の履行のために私がニューヨークまで行かなくてもよいのです。

裁判長： あなたの議論は終わりましたか？

ヘイグッド代理人： はい、終了しました。

裁判長： あなたは決定のための準備はできていますか？

ヘイグッド代理人： 私は決定のための準備はできています。

裁判長： あなたは原告の第8号証を持っていますか？

速記係： ここにすべてあります。

裁判長： わかりました。私も証拠の残りを拝見していいですか。(短い休止後) 当裁判所の意見では、関連する問題は、実質的というよりはむしろ手続的なものであり、したがって、それは琉球列島合衆国民政府の法と手続

規則によって決まります。

原告代理人は、日本の法律を引用していますが、それはいまのところ重要ではありません。いずれにしても、裁判所の意見では、それは適用されません。私は先に述べたように、この事件の立証責任は原告にあります。そして、陪審員や他のいずれの者が、保険者の関係がアメリカ外国保険協会と被保険者の間に存在するとの結論付ける証拠がありません。

代理人は、原告の訴訟代理人は、沖縄のAFIAの責任者の証言を引用しました。しかしながら、これは単に、AFIAが自身を代表して保険証券に署名したのではなく、AFIAが一種の代理人、少なくともホーム保険会社を含む5つの会社の代表者であったことが証言された点で、弁護側の主張を裏付けるものであると考えます。AFIAはこの沖縄に資金を保有していると被告が証言したことは事実ですが、彼は、それはAFIAの資金ではなく、保険料および保険会社に帰属するその他の収入源より賄われたものであり、これらの銀行口座が単に管理上便利であるという理由で維持管理されていると述べました。原告の訴訟代理人が述べた、支払いを避けるためではない、ということ私たちは付け加えてもよいでしょう。

私には、このような銀行口座の維持管理は、支払いの妨げにはならず、むしろ支払いをはかどらせるものであると思われる。AFIAが単に代理人または代表者であるとするもう1つの理由は、証人によれば、保険の収益金を配当せず、訴訟代理人または代表者として相殺決済分の支払いも行っていないことです。そのため、私は、保険会社とアメリカ国外保険協会（AFIA）との関係は確立されていないと考えています。訴状に述べられているのですが、私はそのように読み取ります。私は、保険者であるAFIAと記名被保険者のFECONの間で関係が確立されているとは考えておらず、そのような関係が実際に存在したと陪審が結論付けることができる、いかなる証拠も存在しないと考えています。

したがって、被告としてアメリカ外国保険協会、別名AFIAを脱退させる申出は認められますし、適切な裁判所命令は、裁判所によって準備され、署名されます。

私たちが陪審員を呼び出し、私が自らの決定に関して指示する前に、今、代理人は再開する前に、休憩の間を持つことを望むでしょうか？

マクレラン代理人： おそらく、私たちにに関する限りではごく短い休みだけです、裁判長。

裁判長： 約15分間の休憩では？

ヘイグッド代理人： 私は5分で十分です、裁判長。

マクレラン代理人： 私たちは2時45分に再び召集されるように提案したいのですが、裁判長。

ヘイグッド代理人： それは今から20分です。

裁判長： さて、あなたはかなり骨を折られましたので、私は、訴訟代理人、あなたにもう少し休憩時間を与えても良いと思います。それでは時間をとり、2時45分です。私たちは2時45分に再び集合です。その旨を陪審員に指示してください。それでは、しばらくの間休廷です。

(被告訴訟代理人の動議に基づく、陪審に聞かれない、非公開の法廷は、1965年10月27日水曜日午後2時25分に終了した。裁判所は休廷に続き、陪審がその日午後2時45分に呼び戻されると指示した。)

(陪審不在の非公開の法廷は1965年10月27日水曜日10時40分から午後2時25分に及び、その後、陪審員が臨席の上、その日、廷吏を除き、朝から在廷していた裁判所の構成員によって、裁判は再開された。再召集された時間は、1965年10月27日午後2時45分だった。)

裁判長： 進行しましょう。

陪審の皆さん、裁判所の命令により、AFIAことアメリカ国外保険協会は被告の地位から除外されました。そのため、本件においてAFIAことアメリカ国外保険協会の被告としての責任に関心を払うことはありません。ニューヨーク州の会社であるホーム保険会社が唯一の被告です。繰り返します。裁判所の判断が下されましたので、もう被告はニューヨーク州の会社であるホーム保険会社のみとなります。

マクレラン代理人： 進めてよろしいですか、裁判長？

裁判長： どうぞ。

マクレラン代理人： 陪審員の皆さん、私たちの冒頭陳述は極めて簡潔です。被告側を擁護する論拠そのものは、極めて簡単です。

私たちはここで契約というものに、つまり保険契約という契約の、その保険契約の内容に関心があります。この時点で何より私たちが関心を持つのは、ホーム保険会社はロバード夫人と彼女の子どもに対して、極東建設サービス社に対して判決で支払いを命じられた金額を支払わなければなら

ないか、ということです。そして、これは契約です。純粋にビジネスの問題です。そして、契約の文言に、主として、関心があるのです。これはまた、極東建設サービス社に、ホーム保険会社が、何に対して保険を提供すると合意していたかといったことに関係します。受け取った保険金の金額に対して、いったい何をすると言ったのでしょうか？ 保険会社は、ビジネスに従事している、ほかの主体や個人と同様に、契約がやるべきとすることだけをするように求められているに過ぎないことは、あなたがたは全員、同意すると私は確信しています。契約がなされた時に、契約当事者によって行われるであろうと考えられていたことです。

さて、私たちはこの特定の保険証券を持つてくることはできません。その証券は、番号の終わりの4桁が2215だと分かっているのですが、見当たりません。あちこち探し回りました。被告側も、原告側も、その書類を見つけるため、可能なすべての手段を尽くしたのです。

私たちは、ホーム保険会社を代表する証人を証言台に呼びますが、当該証人は、同社が保険証券の主要条項をそのままファイルに保存していないこと、同社のファイルには、その他の事項しか記載されていないこと、そして保険契約の一般条項は、幾つかの要素、すなわち、それを発行する会社、発行された時期、証券番号、などの性質のものであると、証言します。

私たちは、裁判所がそれを証拠として認めてくださると想定して、保険証券一通も提出いたします。私たちは、裁判所がそうすると考えています。なぜなら、それが状況証拠であり、本件を証明する役に立つからです。私たちは、ホーム保険会社によって、沖縄にある別の会社に対して発行された保険証券を提出します。これは、本件と同じ種類のリスクを対象として、事故が起こった1959年11月30日の期間を対象としています。言うまでもなく、同社が請け負ったリスクの一般条項に関する限り、私たちが本件で関与している特定の保険は同一の条項を有していたというのが、私たちの将来、そして現在の主張です。

さて、この時点で、私は証人、ウィリアムズ・インターナショナル社代理支配人、ベラミー氏を呼び出します。ベラミーさん。

裁判長： 右手を上げてもらえますか？

（被告側証人、ジョン・ベラミー氏は、宣誓をして証言台に立ち、以下の通り証言した。）

主尋問

マクレラン代理人による質問

Q： お名前は？

A： ジョン・ベラミー。

Q： ご職業は？

A： ウィリアムズ・インターナショナル社で働いています。

Q： 沖縄では、どちらにお住まいですか？

A： 小山1267です。

Q： ベラミーさん、現在は、ウィリアムズ・インターナショナル社の沖縄でのマネージャーはどなたですか？

A： ウェントワースさんです。

Q： ウェントワースさんは、いま沖縄におられますか？

A： いいえ。

Q： 留守のときは、誰がマネージャー代行でしょうか？

A： 今のところ、私です。

マクレラン代理人： これに、確認番号をつけてくれますか？

速記官： 確認番号として、被告提出証拠C、とします。

Q： ウィリアムズ・インターナショナル社のマネージャー代行として、このファイルや保険証書その他のこの種の書類や記録を管理するのは誰でしょうか？

A： それは、私がします。

Q： 被告の提出証拠Cとして確認されたものをあなたに手渡しますよ。それを見てください。それを見たとき、その中身を見ないで、被告提出証拠Cであるとされたこの物件が、沖縄でのウィリアムズ・インターナショナル社の書類や記録の一部であるかどうか、教えていただけますか？

A： はい、そうです。

Q： あなたは、この書類の保管者ですか？

A： ウェントワースさんが留守の間は、そうです。

Q： この書類は、通常の業務において、ウィリアムズ・インターナショナル社の書類および記録の一部として保管されているものですか？

A： そうです。

Q： そうすると、あなたはこの書類にはなじみがあるわけですね。

A： そうです。

マクレラン代理人： 裁判長、この証人にはもう聞くことはありません。

裁判長： 反対質問は？

ヘイグッド代理人： いいえ。

裁判長： では、ベラミーさん、ありがとうございます。

マクレラン代理人： ベラミーさんはこれから手続に関わらなくてもよいのでしょうね。

裁判長： そうです。

（今後一切、関与を免除されて、証人ベラミー代理人は退廷した。）

マクレラン代理人： 次の証人、エドワード・N・ハリマンさんをお呼びください。

裁判長： ハリマンさん、あなたは宣誓したことを忘れないでください。

証人： 承知しました。

（エドワード・N・ハリマンは、陪審の聴聞手続外での非公開の審問において、かつて証人であったが、被告側に呼ばれて、すでに宣誓していることを確認され、次のように証言した。）

#### 主尋問

マクレラン代理人による質問

Q： ハリマンさん、陪審の皆さんのため、あなたの名前を教えてください。

A： エドワード・N・ハリマンです。

Q： ご職業は？

A： 私は、沖縄での、アメリカ外国保険協会の在住マネージャーです。

Q： どちらにお住まいですか？

A： 小山のAFIAアパートです。

Q： いまの立場になって何年になりますか？

A： 1963年12月以来です。

Q： さて、あなたは現在ホーム保険会社と取引関係にあるかどうか、教えてくださいませんか？

A： はい。代理人をしています。

Q： 代理人ですと何をしなければならないのですか？ あるいは何ができるのですか？

A： 代理で書類に署名できます。

Q： あなた以外で、沖縄ではどなたか、ホーム保険会社のために活動する権限を持っている人はいますか？

A： いま現在はいません。

Q： では、AFIA事務所のマネージャーであるあなたの前任者は、あなたと同じような代理人の資格を持っているかどうか、ご存じですか？

A： その人たちも持っていたと思います。

Q： ホーム保険会社は、沖縄ではどこかに登記していますか？

A： はい、宜野湾市に。

Q： あなた自身も登記していますか？

A： はい、同じく宜野湾市です。

Q： では、ホーム保険会社が沖縄でどれくらい業務をしてきたか、ご存じですか？

A： すぐに答えろと言われれば、分かりません。

Q： あなたは、ホーム保険会社が発効した外国自動車保険証書の内容をご存じですか？

A： 知っているかと言えば、そうです。

Q： 1959年当時でも、それを知っていましたか？

A： 1959年にはここに来ていません。

Q： では、1959年当時、一般にそういう証書を知っていましたか？

A： 一般的と言えば、1959年にはそうです。

Q： あなたは、その当時、いまの会社で働いていましたか？

A： そうです。

Q： 確認のための被告提出証拠Aとされたものをあなたに手渡します。それをご覧ください。中身を見ないで、この書類を以前ごらんになったことがあるかないか、答えていただけますか？

A： 見たことがあります。

Q： では、確認のための被告提出証拠Bをお渡しします。それをご覧ください。この書類を以前ご覧になったことがありますか？

A： はい。

Q： では同じく、確認のための被告提出証拠Cをご覧ください。それを以前見たことがあるかどうか教えてください。

A： 見たことがあります。

Q： あなたは、これらの書類の内容を知っていますか？



A： はい。

Q： では、ハリマンさん、あなたの前にあるこれらの書類が1959年にホーム保険会社で使われていたものかどうか、教えていただけますか？

A： そのうちの1つはそうでしょう。ほかの2つは、おそらくそうだと思います。

マクレラン代理人： 結構です。さしあたり、証拠として、確認のための被告提出証拠A、B、Cを提出します。原告の代理人にこれを渡したと記録してください。

ヘイグッド代理人： 異議ありません。

裁判長： 異議なく認められました。

（被告提出証拠A、B、Cは証拠として記録された。）

マクレラン代理人： 裁判長、裁判所はこの提出証拠A、BとCをお調べになりますか？ 提出証拠Cの代わりに適当な謄本を記録に綴り込むことを希望します。そうして裁判所がお持ちの原本をその所有者であるウィリアムズ・インターナショナル社に返還するようにしていただきたいのです。

裁判長： 異議ありません。その書類は返還されます。

Q： ハリマンさん、この3点の証拠を調べてください。できたら、あなたに関わる範囲において、つまりホーム保険会社の代表として、これらの書類の特定の利用法がどんなものであるか、教えてください。

A： 穴の開いた書類は、ウィリアムズ・インターナショナル社のファイルから取られたものです。

裁判長： どの提出証拠ですか？

マクレラン代理人： 裁判長、提出証拠Cです。

証人： 失礼。提出証拠Cのことです。

A： （もとに戻って）提出証拠Cはウィリアムズ・インターナショナル社のファイルからとったものです。ウィリアムズ・インターナショナル社は、ホーム保険会社の顧客です。これは実際の保険証書です。だから、その後の変化が記録されています。その後の裏書きだとか。

Q： さて、提出証拠Cについて先に進む前に、この証書で対象としている時期はどうかについて教えてください。

A： 証書は、1959年3月25日から1960年3月25日です。

Q： それでは、1959年11月30日は保険対象なのですね？

A： この証書はそうです。

Q： あなたの前にある提出証拠Cの証書の書式以外に、一般条項について、別の文言を含む証書は何かほかにあるかどうか、教えてくださいか？

A： 私の知る限りではありません。

Q： 下4桁が「2215」である保険証書がこの書式で書かれたものであるかどうか、教えてもらえますか？

ヘイグッド代理人： 異議あり。証人に結論を押しつけています。それは明らかに証人の個人的な知識の範囲内ではありません。

マクレラン代理人： そうとは思いません。この提出証拠そのものにデータがあり、それに当たるかどうか、この証人に分かるものです。

裁判長： 質問を繰り返してもらえますか？

マクレラン代理人： はい。ちょっと言い方を変えます。

Q： その当時に使われた証書の書式形式はこれ以外にないのかどうか、あなたがわかるようなデータがその提出証拠Cにありますか？

A： 下段に印刷者のコードがあって、私どもの証書のすべてに私にはなじみがあるものですが、それには文字や数字がついていて、11、55、1000が印字されています。その意味は、11月、1955年、それらの1000がホーム保険会社によって印刷され、その一つのほかに、少なくともほかに999通あるはずという意味があります。

Q： では、あなたがお持ちのその証書には、コード番号やそのほかの識別番号があるのですか？

A： 上欄にだけあります。

Q： その数字はいくつですか？

A： 780Aとあって、その後に番号があります。

Q： その保険証書では「780A」というのはどういう意味がありますか？

A： 「780A」というのは、沖縄での活動について与えた番号が「780」というもので、「A」というのは「自動車の頭文字」を示します。

Q： それでは、続く番号というのは、何ですか？

A： 番号は印字されています。発行されるたびにすべて番号がふられます。だから、証書を発行するにあたってミスはないわけです。

Q： では、提出証拠AとB、それにも番号が振ってありますか？

A： 提出証拠Bには番号はありません。提出証拠Aにはあります。

Q： 提出証拠Bにはあらかじめ決まった番号がありますか？

A： 780Aという番号があります。

Q： それは沖縄事務所という意味ですか？

A： 沖縄事務所であり、自動車という意味です。

Q： もう一つのは、何となっていますか？

A： それには、沖縄事務所を意味する780がついていて、その後に数字が続きます。

Q： では、提出証拠AとBについて、なにか特定の目的のために使われるのですか？

A： その通りです。

Q： その目的とは何ですか？ ご存じなら、教えてください。

A： 提出証拠Bには、「見本」という文字がここに記されていて、それ以外の目的には使われることはありません。ここには保険会社の名称はいっさいありません。沖縄に登録した保険会社は5社ありますが、ご自分の保険証書をなくされて、そのコピーが必要なときには、私どもがそのうちの一つをとって、会社の名前とあなたの証書の番号を私どもの記録から取り出して印字します。それで、たとえば、自動車の登録のために使われるわけです。

Q： 提出証拠Bをあなたに示します。あなたがそこにお持ちになり、ちょうど見ているものです。これは、5社のうちでいずれからが元々の証書として発行した書式ですか？

A： 全然違います。

Q： 証書の元本そのものは、保険会社の名前でついているのですか？

A： その通りです。

Q： 提出証拠Aについて、ご覧になって、何のためのものか、教えてください。

A： これは、あらかじめ番号が付けられている証書で、ホーム保険会社が780A-0401という番号を振った証書です。これには提出証拠Cのような印刷者コードはついていません。とは言っても、提出証拠Cで空欄になっている場所には保険会社の名前があり、そのほかの文言はすべて同じものです。

Q： では、あなたが手にしているもの、つまり提出証拠Aには、なにかゴム印が押されていますか？

A： これは、会計上の目的のため、無効とされたものです。

Q： どういう意味ですか？

A： つまり、見本以外のいかなる目的にも使われることができないという意味です。私どもの事務所によって会計処理しなければならないので、無効

とされたわけです。

Q： 番号がついている証書はそれぞれ、会計処理されなければならないというわけですか？

A： 番号を付けられた証書はそれぞれ、「無効」または発行された実際の証書によって、会計処理されなければなりません。

マクレラン代理人： 提出証拠8は？

速記官： 裁判長が持っています。

Q： 原告の提出証拠8をあなたに渡しますよ、ハリマンさん。中身に触れずに、ご覧ください。見ていただくだけです。その一般条項になじんでください。さて、しばらく、原告提出証拠8に鉛筆で、あなたがご覧になっているものの上にかかっている注記と手書きの文字を無視して、もしあなたがご存じなら、提出証拠8は、空欄の書式では、何のために使われるものですか、教えてください。

A： これは、提出証拠Bつまり被告提出証拠Bと同じ目的のために使われるものです。この上欄には会社名がありません。

Q： これには印刷したコードがついていますか？

A： はい。

Q： そのコードの意味は？

A： 2、60、3000とありまして、その意味は、2月、1960年、3000部印刷という意味です。

Q： 1960年2月ですか？

A： そういう意味です。

Q： それでは、この書式は、1960年2月以前には使われなかったということでしょうか？

A： さて。

ヘイグッド代理人： 異議あり。

A： この特定の印刷された書式は――

ヘイグッド代理人： その最後の質問に答える前にしばらくお待ちください。裁判長、私は静かに座っておりましたが、マクレラン代理人がご自分のペースで証人を誘導しているのにずっと黙っておりました。この質問に至るまでは異議を申し立てないでおりました。しかし、この最後の質問は、証人個人が知っていることではない事柄について、まさに結論に導こうとするものです。1960年に何が起こったのかを証人が意見を述べる前に、1960

年の「沖縄作戦」について、証人が何を知っているのか、確かめましょう。証人は、すでに1963年からマネージャーをしていると証言しています。そこで、この質問の形式やそれが引き出そうとしている情報が、すでにしかれている基礎よりもこの質問についてよい基礎がないのであれば、証人が個人として知っている範囲を明らかに超えた事柄について、証人に結論を出すように求めています。

マクレラン代理人： 裁判長、私どもはすでに指摘してきたように、この証人は同じ会社に1959年から雇用されております。証人がその会社について知っていることやその証書の書式にある印字されたコード番号についても知っていることを質問することには問題ないように思われます。

裁判長： 質問を繰り返してください。

マクレラン代理人： 私が質問したのは、原告提出証拠が、提出証拠8の形式で、1960年以前に発行されていたかどうかということです。

裁判長： さて、証人とこの会社とのつながりに照らして見ると、この質問に答えることを証人に許可しようと思います。したがって、異議は却下します。

マクレラン代理人： 質問に答えられますか、ハリマンさん。

A： 印刷されたコードによると、この証書は、1960年に3000部印刷されたものの一つです。1960年2月ですね。

Q： 原告提出証拠3として確認され証拠とすることが許されたものを証人にお渡しします。これをご覧ください。よろしければ、このインボイスに示される期間はどのようなものであるのか、教えてください。保険の期間についておたずねしています。どのような期間に関するものでしょうか？

A： 1959年4月1日から1960年4月1日まで。

Q： それは、証書番号780A-2215ということですか？

A： もう一度言っていただけますか？

Q： これは下4桁が2215となっていることを示しますか？

A： その通りです。

Q： ご存じなら、これがいつ発行されたのでしょうか？

A： 1959年4月22日という日付になっています。

Q： この書類を調べただけで、これがあなたの会社が発行したものであるかどうか、言うことができますか？

A： はい。

Q： では、原告提出証拠6として証拠採用されたものをお渡しします。ご覧

ください。よろしければ、これはあなたの会社が発行したものであるかどうか、教えてください。

A : 私どもの会社で発行したものではありません。

Q : 誰が発行したのですか？

A : 東京のオーレル保険代理店です。

Q : 末尾の番号が2215という証書について、この書類には何か指示がついていますか？

A : はい、ついています。

Q : この書類の日付はいつでしょうか？

A : 1959年5月7日です。

Q : では、証拠として採用された原告提出証拠5をお渡しします。ご覧ください。もしご存じなら、これはどういうものであるのか、教えてください。

A : これは会計報告書です。

Q : どの事務所が発行したのですか、もしご存じなら。

A : これは沖縄で発行されたものです。

Q : どの会社によってでしょうか？

A : これは私どもの沖縄の事務所、アメリカ外国保険協会が発行したものです。

Q : あなたの事務所で使われた標準的な書式ですか？

A : はい、そうです。

Q : 証書番号2215との関係で、何か書いてありますか？

A : はい。

Q : この書類の日付は、どうですか？

A : 1959年6月1日付となっています。

Q : これは特定の事柄を目的としたものですか？ もしそうなら、何が目的か教えてください。

A : どういうことでしょうか？

Q : この証書の目的は何か？ この証書の目的というものが、ご存じなら、何でしょうか？

A : これは勘定書きで、極東建設サービス社に向けた会計文書で、保険約款とプレミアを掲げたものです。

Q : これを見ただけで、これが将来提供されるサービスについてのものかどうか、わかりますか？

A : 1959年5月31日現在で、支払われていないが、約定プレミアに関するも

のです。

マクレラン代理人： 裁判長、しばらく休憩することができますか？ ミリントンさんが水を一杯飲むことができるように。

陪審員ミリントン： 私なら大丈夫ですよ。

マクレラン代理人： 結構です。要求を撤回します。

Q： さて、ホーム保険会社でのあなたの経験と知識に基づくと、被保険者ウィリアムズ・インターナショナル社名義で発行された被告提出証拠Cのこの保険約款について、これは、あなたの会社が被保険者または負傷した人に対して支払いを必要とするものであるのかどうか、教えてください。

ヘイグッド代理人： この質問には異議があります。それは、この訴訟の心臓部にあたる法的な結論を求めるものです。これこそ、陪審と裁判長が判断すべき事柄であって、この証人がこれについていかなる意見も表明することを求めるものであってはなりません。証人は、保険に関する鑑定人としての資格を与えられたものではなく、また1959年に沖縄であった出来事について、それが何であれ、いかなる知識も持っていることを示すものはないのです。訴訟代理人は、この証人からこの訴訟のまさに心臓部にあたる、法的な結論を引き出そうとしています。この結論というものは、法廷が引き出すべきものであり、法廷が陪審に説示すべきものであります。裁判長、保険を売っている素人が、契約の法的な効果がどうかについて、意見を聞かれるというのは、不適切の極めであります。これこそ、法廷が決めるべき事柄です。

マクレラン代理人： よろしければ、質問を撤回して、陪審に対して、証拠として採用された被告提出証拠Cの一部を朗読する許可をいただきたいのですが。

裁判長： 許可します。

マクレラン代理人： 被告提出証拠Cの一部を読み上げます。その書き出しはこうです。引用します。第1行：「保険の対象A—法的責任。それから派生するいかなる時においても、いかなる人または複数の人々によって被る死亡を含む身体傷害のゆえに、配慮および業務の欠如についての損害賠償を含む損害賠償について、および事故によって生じた財産の効用喪失を含む財産の損壊または財産への損傷についての損害賠償について、当該自動車の所有、維持または使用から生じた法的にその者に課せられる民事責任のゆえに、保険者が支払う義務を負うことになるあらゆる金額について、

被保険者に補償するものとする。以上述べた目的のための当該自動車の使用には、その自動車への荷物の搭載または積み卸しを含む。』

証拠として採用されている被告提出証拠Aの中身の冒頭から読み上げることも、お許しいただきたいのですが。

裁判長： 許可します。

マクレラン代理人：（朗読）「パラグラフ1．保険範囲A-1—身体傷害責任：当該自動車の所有、維持または使用から生じ、かつ、事故によって引き起こされ、いかなる者が被害を受けた場合であっても、身体傷害、疾患または疾病ならびにそれからいかなる時においても死亡が生じた場合を含めて、これらを原因として損害賠償として、被保険者が支払う法的な義務を負うことになるあらゆる金額について、被保険者に補償するものとする。」

法廷の許可を得て、被告提出証拠Bも読み上げのご許可をいただきたいのですが。これも同じ領域に属するものです。

裁判長： 許可します。

マクレラン代理人：（朗読）「パラグラフ1．保険範囲A-1—身体傷害責任：当該自動車の所有、維持または使用から生じ、かつ、事故によって引き起こされ、いかなる者が被害を受けた場合であっても、身体傷害、疾患または疾病ならびにそれからいかなる時においても死亡が生じた場合を含めて、これらを原因として損害賠償として、被保険者が支払う法的な義務を負うことになるあらゆる金額について、被保険者に補償するものとする。」引用終わり。

Q： さて、ハリマンさん、提出証拠Cがウィリアムズ・インターナショナル社に対して発行されたものだと言われていると思いますが、そうですか？

A： その通りです。

Q： 提出証拠Cの一部として私が朗読したこれらの条項は保険契約の不可欠な一部ですが、あなたはそれをご存じですか？

A： これは標準的なものです。

Q： これらの条項には、「被保険者に補償すべき」という文言を含みますか？

A： はい。

マクレラン代理人： 結構です。裁判長、私からは以上です。

裁判長： 反対尋問は？

ヘイグッド代理人： すぐに。

(続く)